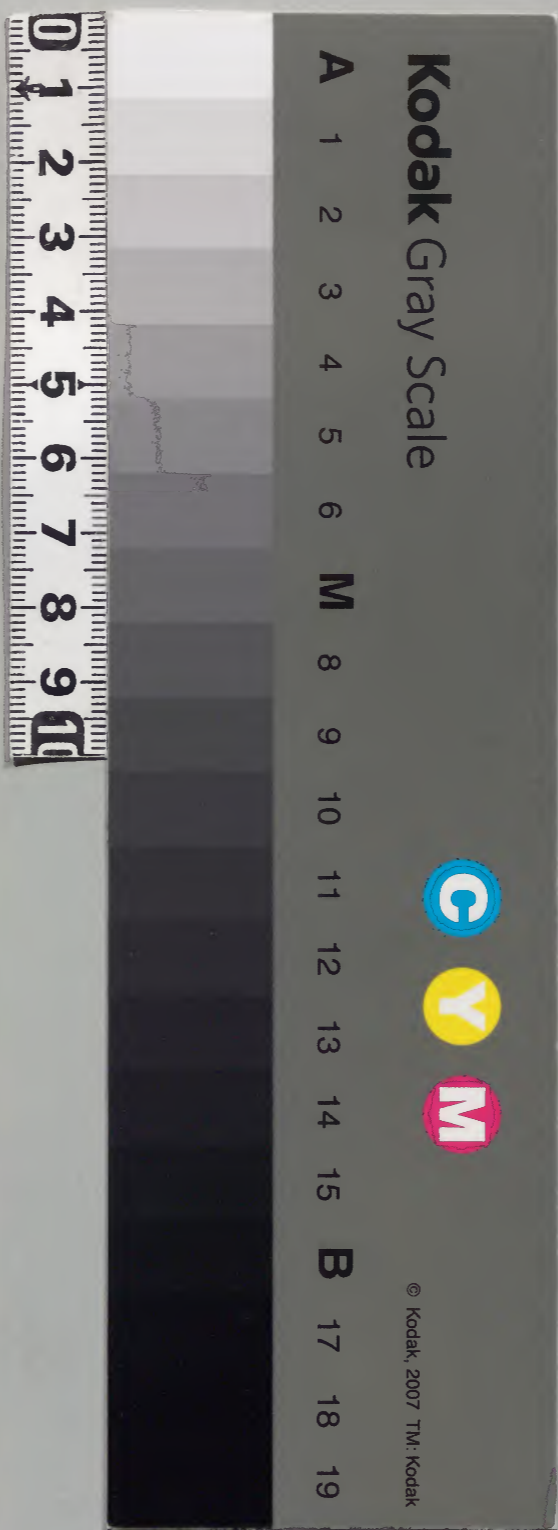


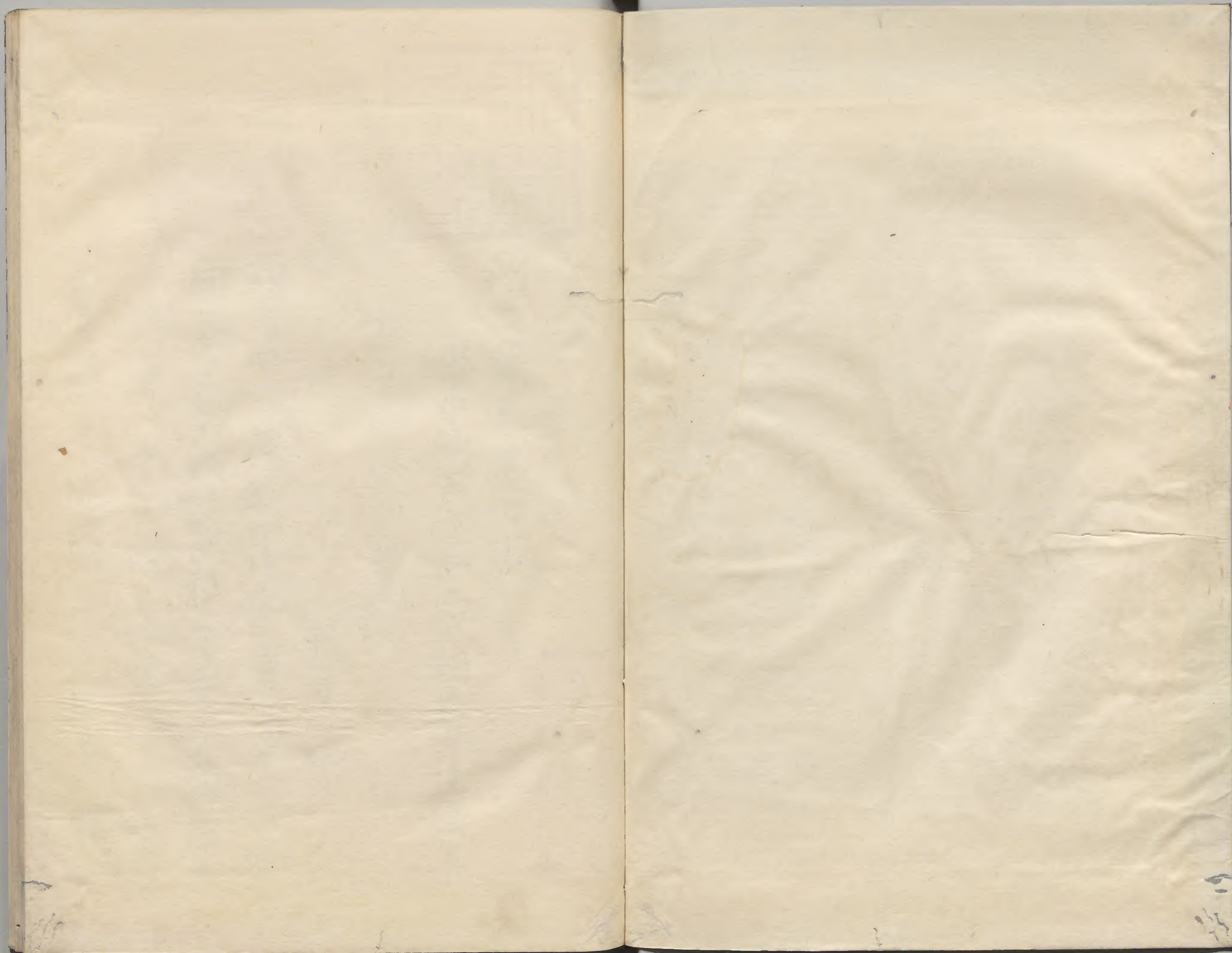
八洲文藻卷第七十八

内閣文庫	
番號	和 18283
冊數	88 ( 79)
函號	204 259

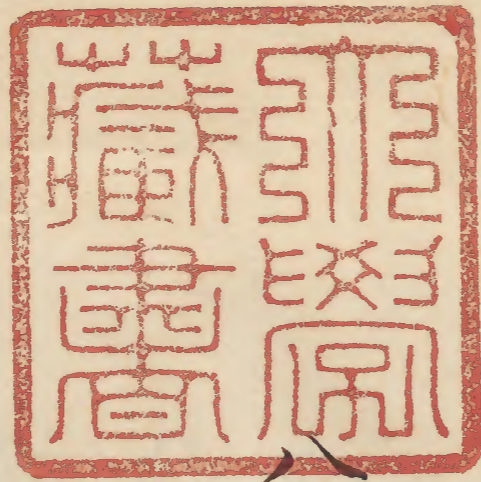
庫	文	門	内
二	一	八	和
四	八	二	書
九	八	三	類
架	冊	號	











洲文藻卷第七十八

權中納言從二位源朝臣齊昭編集

柿本像縁色勅進狀

新唐記



淺草文庫

殊に十方檀形の古物本もて大和  
國添と郡治道の柿下寺人凡れ堂  
字修造一かゝひまのの本像なあ  
れ縁色をもひてこゝ勅進を凡れ狀











此書は人死に於て中法修理大  
法師の遺言を記して善原教  
光の撰の詞ありしよし也  
之を記すは其の意を以て  
其の意を以て其の意を以て  
其の意を以て其の意を以て  
其の意を以て其の意を以て  
其の意を以て其の意を以て  
其の意を以て其の意を以て  
其の意を以て其の意を以て  
其の意を以て其の意を以て

其の意を以て其の意を以て  
其の意を以て其の意を以て  
其の意を以て其の意を以て  
其の意を以て其の意を以て  
其の意を以て其の意を以て  
其の意を以て其の意を以て  
其の意を以て其の意を以て  
其の意を以て其の意を以て  
其の意を以て其の意を以て  
其の意を以て其の意を以て







愁訴状

岡波莊日某後

大右將との由きこしより岡波の家より  
さし申たる不仕るは羽根れを部  
りやうれよりねんくねんくはし  
郎たよりねるもさし申たるとは  
たんじたりとねんくはしとねんく











Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document, written on the right page of the open book. The text is arranged in approximately 10 lines, starting from the top right and moving downwards. The script is fluid and characteristic of 18th-century European cursive.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document, written on the left page of the open book. The text is arranged in approximately 10 lines, starting from the top left and moving downwards. The script is fluid and characteristic of 18th-century European cursive.



Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, written on the right page of an open book. The text is written in a fluid, connected style.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, written on the left page of an open book. The text is written in a fluid, connected style.



ハ幡法印願書

藤原公家

致白

志願事

子の高下下莊園字のちのり

のちのり

権子のちのり











Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, written on the right page of the open book. The text is written in a fluid, connected style.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, written on the left page of the open book. The text is written in a fluid, connected style.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, written on the left page of the open book. The text is written in a fluid, connected style.







まゝに流しにせしむる事  
に成る事ありては  
其程な事あり

一宮寺僧侶なるお秩なる事あり  
也

古くは僧侶なるお秩なる事あり  
し事ともお秩なる事あり  
の事なる人あり

藉の事ありて同科の事あり  
もこの事ありて授の事あり  
る位なる事あり  
一御為日入寺僧お秩なる事あり  
也

古くは日入寺僧十人  
寺僧  
これより碩学僧侶の人あり  
之をひて此の事あり







わさゆる 経呪字 誦念を人  
らふ せむし 字 □ すやん ことし  
よと 法 一 釋 如 の 甚 詔 字 攝 護  
一 百 五 十 兩 流 字 保 護 字 じ せ ぬ  
ハ 碩 字 字 優 劣 字 じ せ ぬ 神 字  
の せ ぬ 字 一 寸 一 寸 一 寸 一 寸 一 寸  
一 寸 一 寸 一 寸 一 寸 一 寸 一 寸  
き せ ぬ 字 一 寸 一 寸 一 寸 一 寸 一 寸

為 日 一 密 字 一 寸 一 寸 一 寸 一 寸  
取 寄 の 信 字 一 寸 一 寸 一 寸 一 寸  
字 一 寸 一 寸 一 寸 一 寸 一 寸 一 寸  
福 字 一 寸 一 寸 一 寸 一 寸 一 寸 一 寸  
花 字 一 寸 一 寸 一 寸 一 寸 一 寸 一 寸  
一 寸 一 寸 一 寸 一 寸 一 寸 一 寸  
あ せ ぬ 字 一 寸 一 寸 一 寸 一 寸

大 設 生 ち 十 五 五 戒 の 根 本 六 趣 福



目ノ禁固也一守守の守守の守守の守守  
守守守守守守守守守守守守守守守守  
守守守守守守守守守守守守守守守守  
守守守守守守守守守守守守守守守守  
守守守守守守守守守守守守守守守守  
守守守守守守守守守守守守守守守守  
守守守守守守守守守守守守守守守守  
守守守守守守守守守守守守守守守守  
守守守守守守守守守守守守守守守守

守守守守守守守守守守守守守守守守  
守守守守守守守守守守守守守守守守  
守守守守守守守守守守守守守守守守  
守守守守守守守守守守守守守守守守  
守守守守守守守守守守守守守守守守  
守守守守守守守守守守守守守守守守  
守守守守守守守守守守守守守守守守  
守守守守守守守守守守守守守守守守  
守守守守守守守守守守守守守守守守  
守守守守守守守守守守守守守守守守















侶にふまかしてあむねて衣衾にまゝ  
さつしあきん日可石段の念佛  
さかちかくて永代無邪の善根を候  
まじりてこれ縁因カマなりめて用違を  
まじりて一室福をむ借流たれ  
さつしあきん日可石段の念佛  
さかちかくて永代無邪の善根を候  
まじりてこれ縁因カマなりめて用違を  
まじりて一室福をむ借流たれ

去回又い客里女にまじりて老のま  
えりての福名の念佛にまじりて極  
あれをまじりてつら結をうられ  
しあきん日可石段の念佛  
さかちかくて永代無邪の善根を候  
まじりてこれ縁因カマなりめて用違を  
まじりて一室福をむ借流たれ



後なるふらふらとては信國女を甲  
き道をお縁を縁自界地界とて  
一仏のちよとておれとておれとて  
とあつたむらゐり一冊の利益と  
おれとておれとておれとて  
おれとておれとておれとて  
信院のりらとておれとて  
おれとておれとておれとて

これと持たしこれと修しとて毎  
事れ日業を修しとておれとて  
おれとておれとておれとて  
おれとておれとておれとて  
おれとておれとておれとて  
おれとておれとておれとて  
おれとておれとておれとて  
おれとておれとておれとて  
おれとておれとておれとて  
おれとておれとておれとて



わのほころふやまのまのあゝん殿勤  
れんこゝろまのまのあゝん殿勤  
る

一當りの世修理 さまのまのまの

寺のれんまのまの

ちのまのまのまの ちのまのまのまの  
あるまのまのまのまのまのまの  
物まのまのまのまのまのまのまの

七のの國衛に國官家まのまのまの  
下のまの神社まのまのまのまのまの九  
まのまのまのまのまのまのまの  
人物まのまのまのまのまのまのまの  
まのまのまのまのまのまのまのまの  
法祖まのまのまのまのまのまのまの  
田園まのまのまのまのまのまのまの  
まのまのまのまのまのまのまのまの







Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, written on the left page of an open book. The text is written in a fluid, connected style.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, written on the right page of an open book. The text is written in a fluid, connected style.











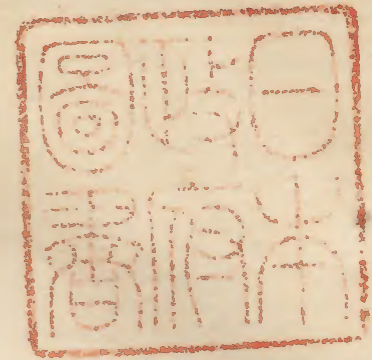
しほさきとらんせとて魂の形といふ  
るからその傍に字を添へて  
さきとて及れぬ教さすつゆまゝに  
わらわおとれらるゝわらわといふ  
の形葉なるはなをひらきしる  
像廿六体字送るゝ新書と安  
しとてまゝに又さ嵐に格縁  
三人の傍に字を添へて  
新書と安

師わらわの先師の三教也  
われはとてわらわら  
儀なるまゝに  
わらわの  
善菩薩はとてわらわら  
わらわの









31.



